



第1章

総括編

「第35回国民文化祭・みやざき2020」「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」は、キャッチフレーズ「山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ」のもと、令和3年7月3日から10月17日の107日間にわたり、県内各地において開催しました。当初、令和2年度に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、会期を延期しての開催となりました。

令和2年度は、「さきがけプログラム」として34事業を実施し、本大会への気運醸成を図り、令和3年度の本大会では、新型コロナにより26事業が中止となりましたが、110事業を実施しました。

開会式では、オンラインにより天皇皇后両陛下の御臨席を賜り、キャッチフレーズの世界観をダンスや伝統芸能を織り交ぜ、ダイナミックに表現したパフォーマンスを披露しました。

大会期間中は、県内各地で地域色にあふれたさまざまな分野の事業を開催し、リモートによる出演やオンライン配信など、新型コロナ感染防止対策について最大限の工夫をしながら、宮崎の文化を発信することができました。

閉会式では、同年度開催となった次期開催の和歌山県に国民文化祭旗を引き継ぎ、閉幕しました。

大会概要

(1) 名称

第35回国民文化祭・みやざき2020

第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会

(2) キャッチフレーズ

山の幸 海の幸 いざ神話の源流へ

宮崎県では神代の昔から豊かな山と海を、そこから育まれるいのちをいただいています。また、そのことに対する感謝の心がさまざまな文化として芽吹き、これまで脈々と継承されてきております。このような素晴らしい宮崎に是非来ていただき、宮崎の魅力を体感していただきたいという思いをこのキャッチフレーズに込めています。

(3) 基本方針

① 「神話の源流みやざき」の探究

はじまりを知り、継承、熟成されたみやざきの宝を堪能する。

② すべての県民が参画し、若い世代が輝く

すべての県民が大会へ参画するとともに、一体となったもてなしを行い、次代の文化活動を担う若者が躍動し地域の元気を牽引する。

③ 新しい出会いから始まる文化の創造

歴史を紡いだ本県の多種多様な民俗芸能や伝統芸能、文化事業を再認識・継承・発展させるとともに、地域や世代、ジャンルを超えた全国的な文化交流により新たな文化を創造する。

④ 共に生きる 共に感じる 文化で紡ぐ共生社会

障がいのある人もない人も互いに人格と個性を尊重し合う共生社会を実現するとともに、新しいボーダレスな芸術文化を創造する。

⑤ 「ひなた」に育まれた食と暮らしそして世界へ

日本のひなた宮崎県の豊かな自然が育んだ農山漁村文化と食文化を全国へ、世界へと羽ばたかせる。

(4) 会期

令和3年(2021年)7月3日(土)～10月17日(日)

(5) 事業構成

○総合フェスティバル

開会式、閉会式の式典と宮崎のさまざまな文化が集結したプログラム

○フォーカスプログラム

長い文化的な営みの中で育んできた4つの文化(記紀・神話・神楽、宮崎国際音楽祭、若山牧水、宮崎の食文化)に焦点(フォーカス)を当てたプログラム

○パートナーシッププログラム

さまざまな団体等と連携し、多くの県民が楽しみながら地域の文化に触れられるプログラム

○共に生きて共に感じる文化芸術プログラム

文化を通じ、障がいのある人もない人も共に生きる社会の実現の図るためのプログラム

○分野別フェスティバル

県内の市町村が文化団体等と連携し、それぞれの地域で行われてきた文化活動を発信し、特色を生かした多彩なプログラム

○さきがけプログラム

延期となった大会に先駆けて、本大会の一環として令和2年度に開催するプログラム

○特別応援プログラム

開催の気運醸成を図るため相互に広報協力をする事業で大会テーマに沿った事業

○応援プログラム

会期前・会期中を通じて、開催の気運醸成を図るため相互に広報協力をする事業

○プレイベント

会期前を通じて、開催の気運醸成を図るため相互に広報協力をする事業

(6) 主催者

文化庁 厚生労働省 宮崎県 宮崎県教育委員会 市町村 市町村教育委員会
第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会
市町村実行委員会 文化関係団体等

実施状況

(1) 参加者数

(単位：人)

区分（事業数）		来場者・観覧者	スタッフ	ボランティア	出演者・出展者	合計
令和3年度	総合フェスティバル（3）	1,168	529	47	430	2,174
	フォーカスプログラム（16）	21,861	1,080	86	987	24,014
	パートナーシッププログラム（5）	27,701	170	10	289	28,170
	共に生きて共に感じる 芸術文化プログラム（10）	7,254	165	211	1,474	9,104
	分野別フェスティバル（76）	267,213	2,684	1,226	9,722	280,845
	特別応援プログラム（9）	72,171	243	47	0	72,461
	応援プログラム（37）	6,883	286	76	1,966	9,211
令和2年度	さきがけプログラム（34）	21,698	1,297	281	1,526	24,802
	特別応援プログラム（32）	98,892	1,639	290	1,192	102,013
	応援プログラム（8）	2,829	116	158	1,468	4,571
広報サポーター		—	—	3,060	—	3,060
合計		527,670	8,209	5,492	19,054	560,425

※フォーカスプログラム、さきがけプログラムの来場者・観覧者には、キキタビの御朱印帳の配布数を含む。

※応援プログラムは大会期間外に開催された事業は含まない。

(2) 出演者・出展者の内訳

(単位：人)

区分	出演者			出展者			
	県内	県外・海外	合計	県内	県外・海外	合計	
令和3年度	総合フェスティバル	406	24	430	0	0	0
	フォーカスプログラム	477	510	987	0	0	0
	パートナーシッププログラム	209	7	216	73	0	73
	共に生きて共に感じる 芸術文化プログラム	307	72	379	823	272	1,095
	分野別フェスティバル	2,743	1,122	3,865	2,463	3,394	5,857
	特別応援プログラム	0	0	0	0	0	0
	応援プログラム	656	—	656	1,310	—	1,310
令和2年度	さきがけプログラム	1,271	91	1,362	159	5	164
	特別応援プログラム	1,100	92	1,192	0	0	0
	応援プログラム	359	—	359	1,109	—	1,109
合計		7,528	1,918	9,446	5,937	3,671	9,608

※応援プログラムの内訳は不明のため、それぞれ「県内」に計上し、また、出展数を出演者数としている。

(3) 出展数

(単位：点)

区分（事業数）		県内	県外・海外	合計
令和3年度	パートナーシッププログラム	672	0	672
	共に生きて共に感じる芸術文化プログラム	7,669	5,992	13,661
	分野別フェスティバル	4,558	19,177	23,735
	応援プログラム	1,310	—	1,310
令和2年度	さきがけプログラム	739	14	753
	応援プログラム	1,109	—	1,109
合計		16,057	25,183	41,240

※応援プログラムの内訳は不明のため、それぞれ「県内」に計上している。

(4) 主な成果

① 宮崎の文化資源の再発見

日向神話や神楽に代表される県内の文化に目を向けたプログラムが企画され、多くの県民が郷土の魅力に気づく契機となった。

② 地域や各種団体等との連携強化

大会を一律に中止としなかったことで、文化団体の主催者で何ができるかを考え、実施するまでの過程を通じて、連帯感がうまれた。

③ 障がいのある人もない人も共に楽しむ文化活動の推進

舞台の演者が手話で概要通訳を行うなど、障がい者向けに新たな鑑賞方法を工夫・実践したことで、障がい者の鑑賞の幅が広がったほか、芸文祭にボランティアやスタッフとして関わる中で、障がい者芸術の魅力に気づき、触れるきっかけがうまれた。

④ 新たな文化活動の創出

神楽と電子音楽のコラボレーションなど異分野の文化の融合により、新しい文化の創造やこれまで関心の無かった層へのアプローチ、新しい鑑賞の提案ができた。

⑤ オンライン等を活用した新たな手法による文化の発信

オンラインや You Tube での大会プログラムの発信を行い、地域を超えて若い世代の方にも、文化に親しむ機会をつくることができた。

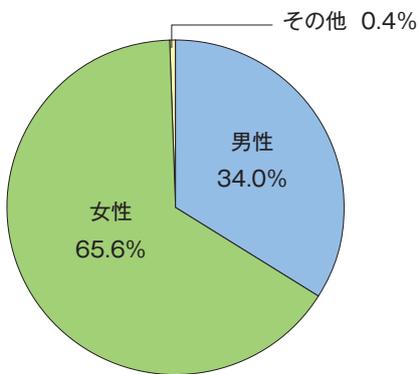
(5) アンケート

「第35回国民文化祭・みやざき2020」「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」への来場者、出演団体及び主催者を対象に、属性や来場・出演の感想などについて、アンケートを実施しました。

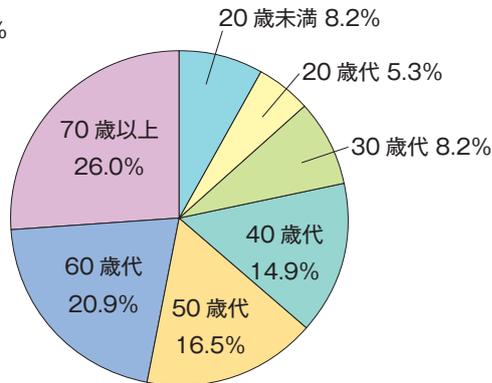
	来場者アンケート	出演団体アンケート	主催者アンケート
調査方法	会場で配布・回収	主催者を通じて配布・回収	主催者から回答
回収結果	10,182件	232件	133件
調査項目	① 属性（性別、年齢、居住地等） ② 情報入手手段（媒体） ③ 感想 ④ アクセシビリティの向上のために必要と思うもの ⑤ 地域の文化芸術の向上に必要なこと ⑥ コロナ禍において文化芸術イベントを開催する意義	① 属性（性別及び年齢の構成、活動本拠地等） ② 出演理由 ③ 感想 ④ 地域の文化芸術の向上に必要なこと ⑤ 国文祭・芸文祭のレガシー ⑥ コロナ禍において文化芸術イベントを開催する意義	① 主催した理由 ② 主催者としての苦勞、課題 ③ 事業の成果 ④ 地域の文化芸術の向上に必要なこと ⑤ 国文祭・芸文祭のレガシー ⑥ コロナ禍において文化芸術イベントを開催する意義

■ 来場者アンケートの主な結果

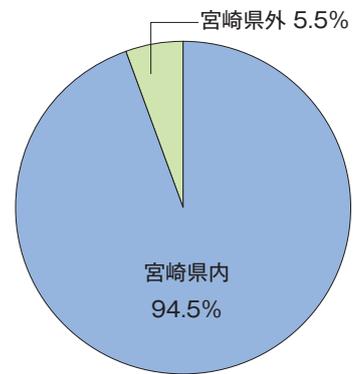
(1-1) 性別



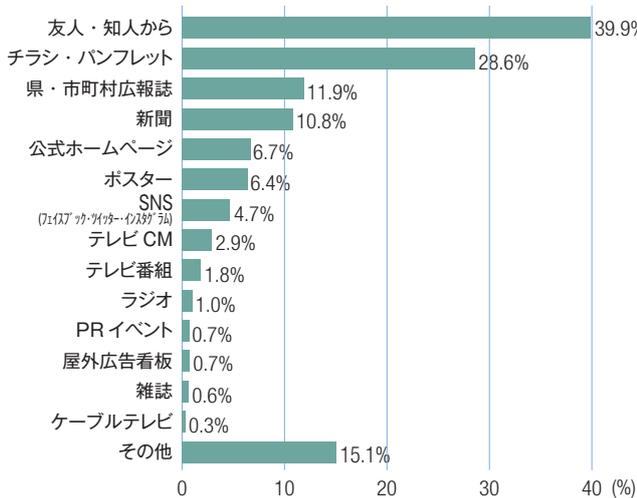
(1-2) 年齢



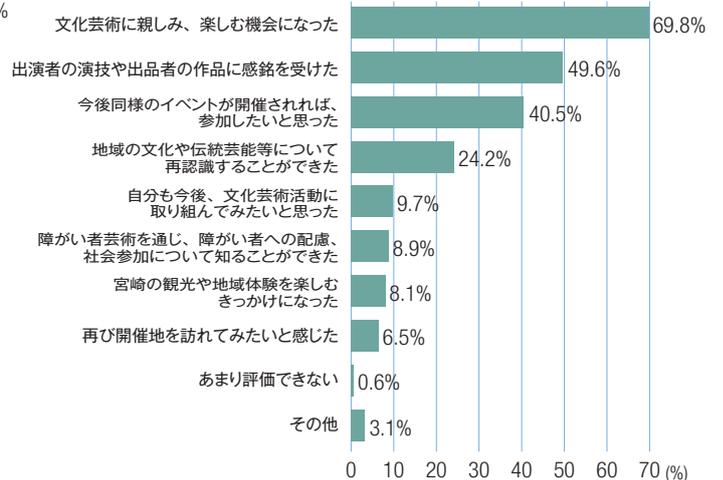
(1-3) 居住地



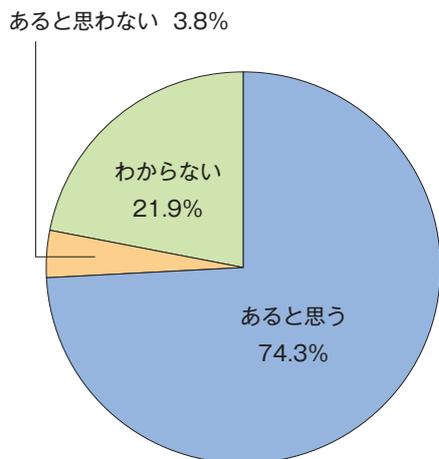
(2) 情報入手手段（複数回答あり）



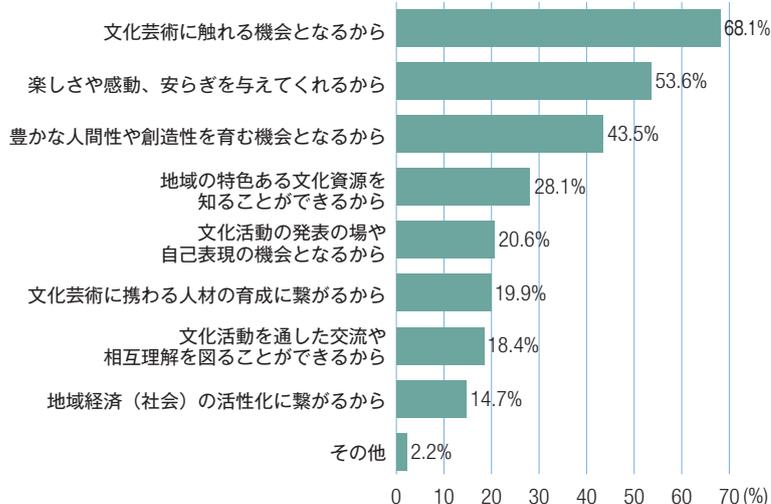
(3) 感想（複数回答あり）



(4-1) コロナ禍において文化芸術イベント(国文祭・芸文祭)を開催する意義

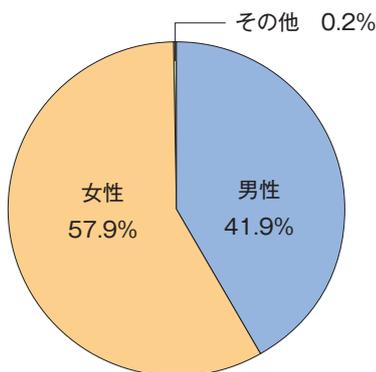


(4-2) 開催する意義があると思う理由(複数回答あり)

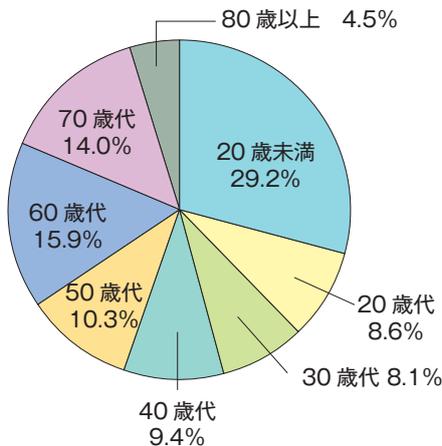


■ 出演団体アンケートの主な結果

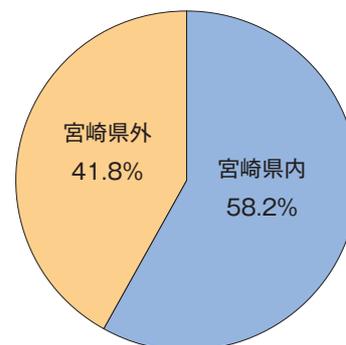
(1-1) 構成員の性別



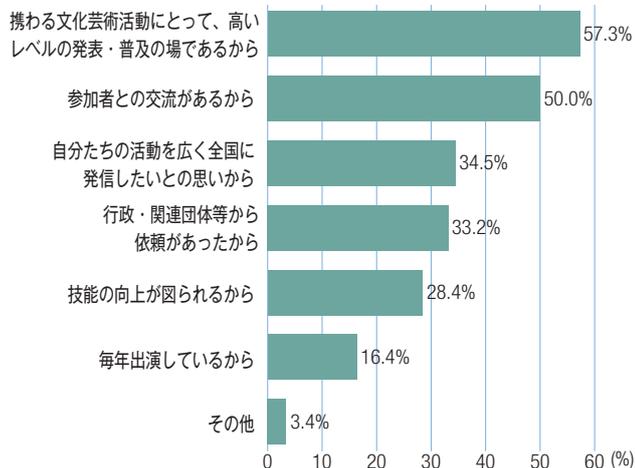
(1-2) 構成員の年齢



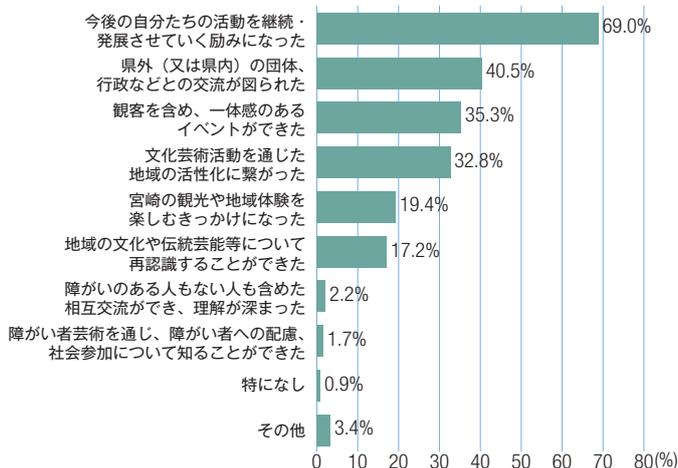
(1-3) 活動本拠地



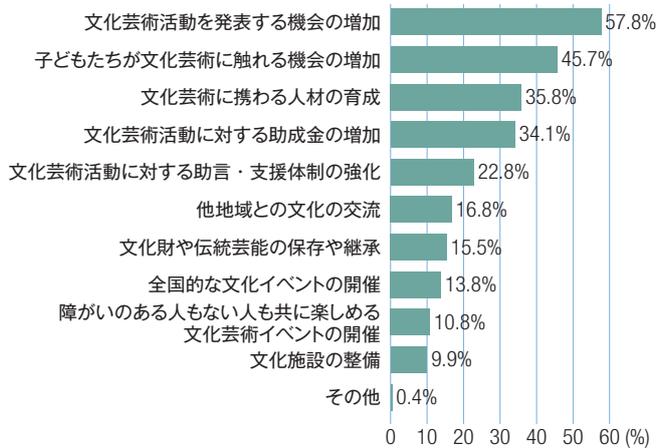
(2) 出演理由(複数回答あり)



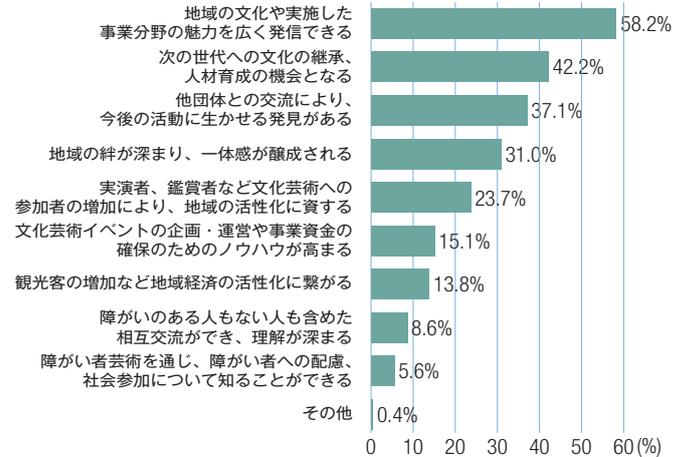
(3) 出演した事業の感想(複数回答あり)



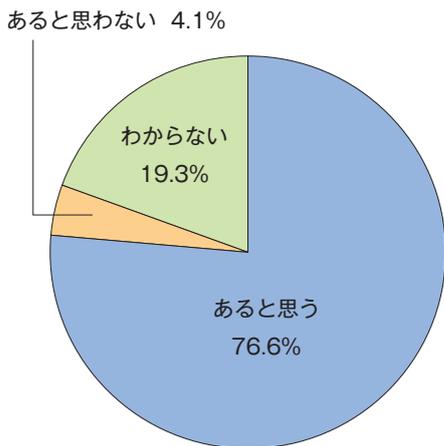
(4) 地域（または宮崎）の文化芸術の向上発展に必要なこと（複数回答あり）



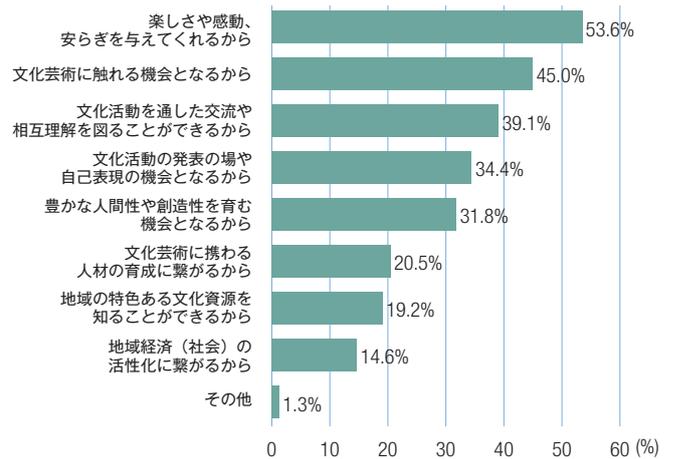
(5) 国文祭、芸文祭の後世に業績として評価されること（レガシー）（複数回答あり）



(6-1) コロナ禍において文化芸術イベント（国文祭、芸文祭）を開催する意義

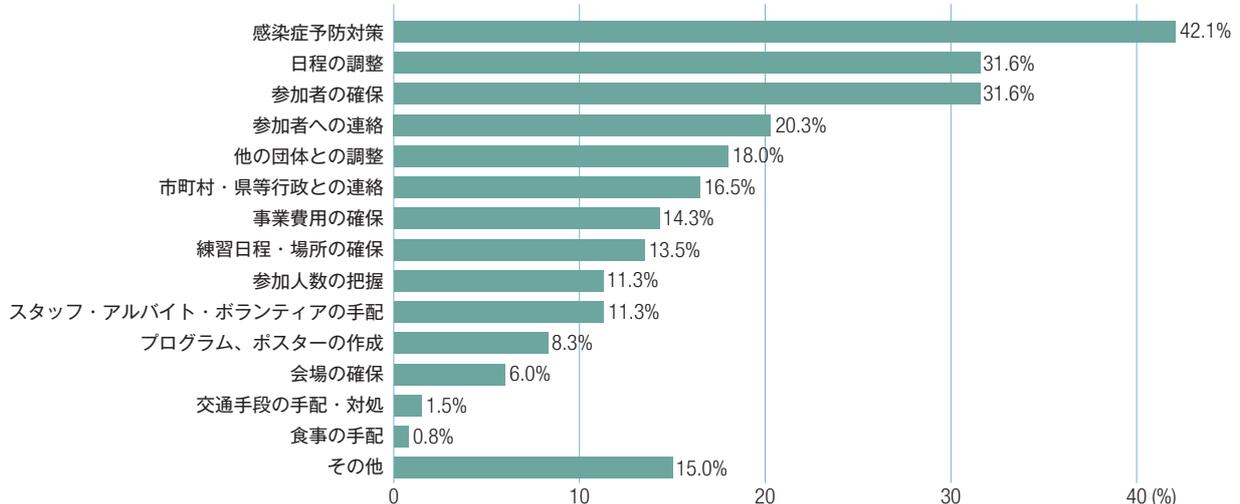


(6-2) 開催する意義があると思う理由（複数回答あり）

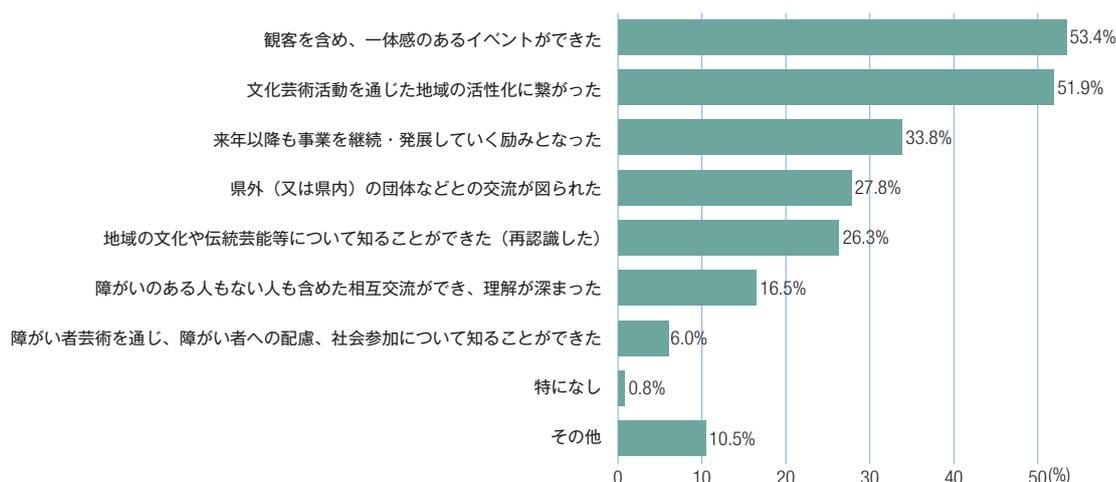


■ 主催者アンケートの主な結果

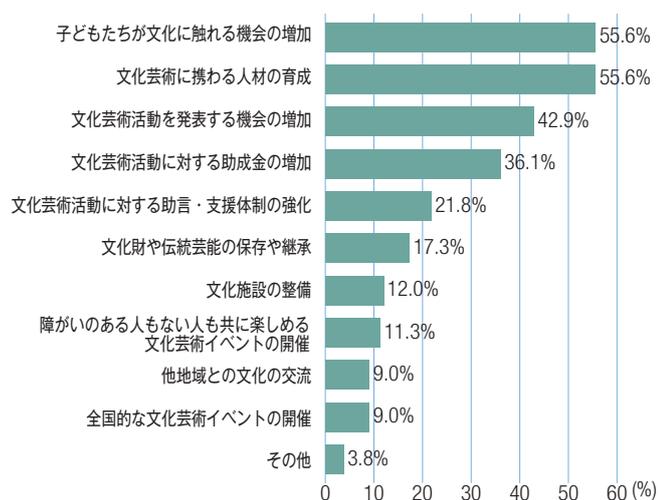
(1) 主催者としての苦勞、課題（複数回答あり）



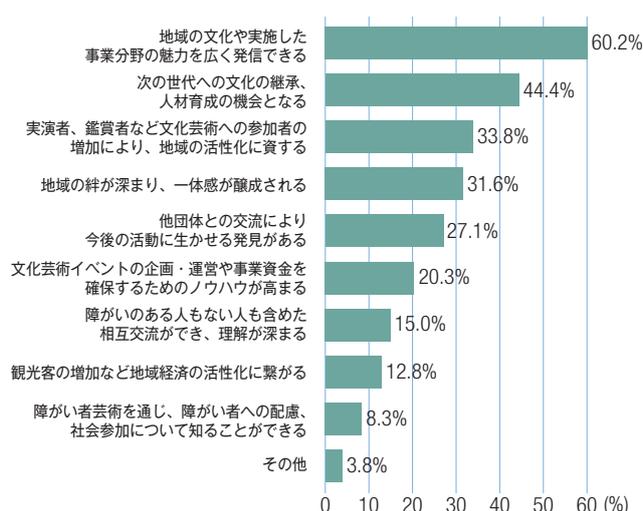
(2) 主催した事業の成果（複数回答あり）



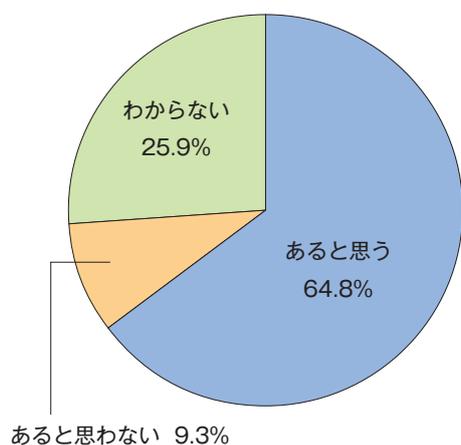
(3) 地域（または宮崎）の文化芸術の向上発展に必要なこと（複数回答あり）



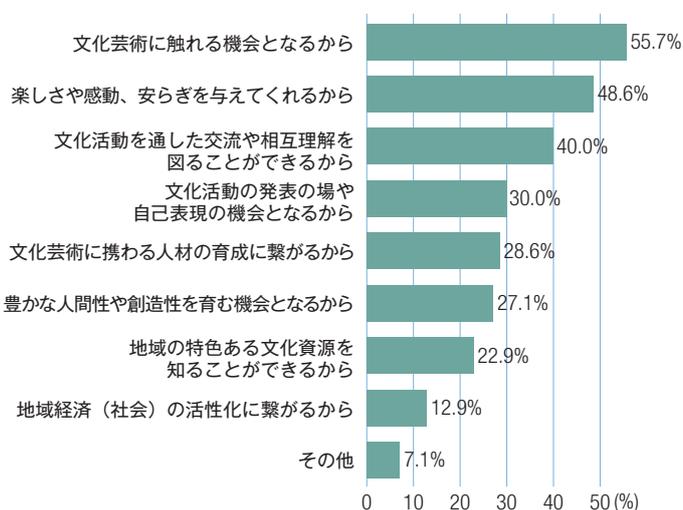
(4) 国文祭、芸文祭の後世に業績として評価されること（レガシー）（複数回答あり）



(5-1) コロナ禍において文化芸術イベント（国文祭、芸文祭）を開催する意義



(5-2) 開催する意義があると思う理由（複数回答あり）



推進体制と準備経過

(1) 推進体制

○第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会

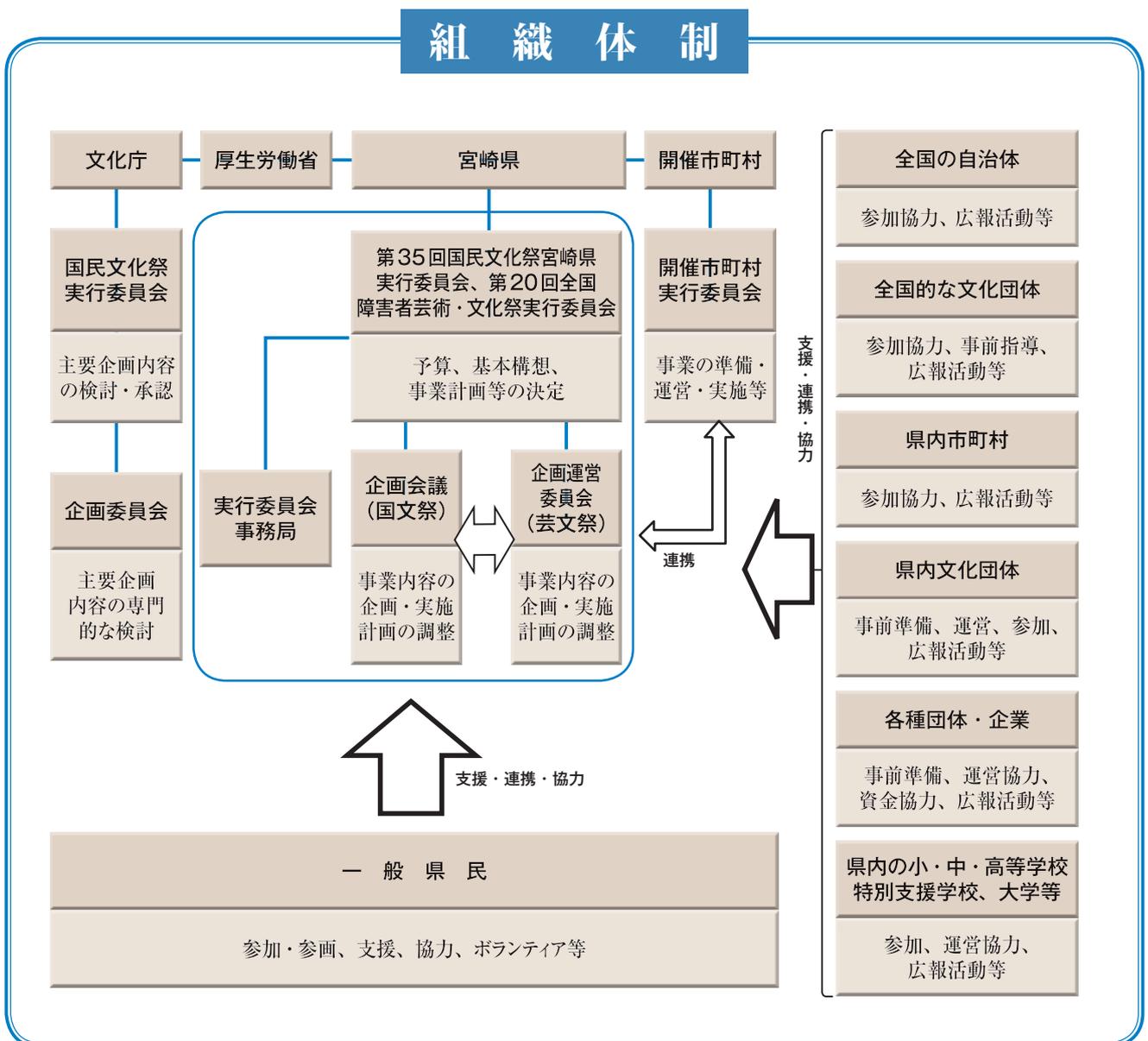
「第35回国民文化祭・みやざき2020」「第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会」の開催にあたり、宮崎から新たな風を巻き起こす活力あふれる大会を目指すため、関係機関及び団体等の御理解と御協力を得て設立しました。

○国民文化祭企画会議

国民文化祭の準備、運営及び実施に関する事項について検討を行うために設置しました。

○全国障害者芸術・文化祭企画運営委員会

全国障害者芸術・文化祭の準備、運営及び実施に関する事項について検討を行うために設置しました。



(2) 準備経過

■ 平成28年度

- 11月1日 第35回国民文化祭の宮崎県開催内定
- 3月28日 第20回全国障害者芸術・文化祭の宮崎県開催決定

■ 平成29年度

- 6月7日 第35回国民文化祭宮崎県実行委員会、第20回全国障害者芸術・文化祭実行委員会（以下、「宮崎県実行委員会」という。）設立総会
- 8月21日 第1回国民文化祭企画会議（以下、「企画会議」という。）
- 10月23日 宮崎県実行委員会第2回総会
- 12月19日 第2回企画会議
- 12月25～27日 市町村個別説明・意見交換会
- 2月2日 県内文化団体説明会
- 2月5日 第1回全国障害者芸術・文化祭企画運営委員会（以下、「企画運営委員会」という。）
- 2月14日 第3回企画会議
- 3月23日 第4回企画会議

■ 平成30年度

- 4月25日 市町村担当者説明会
- 5月8～9日 芸術文化団体等個別相談会
- 5月16日 第5回企画会議
- 5月28日 ロゴマーク発表
宮崎県実行委員会第3回総会
- 8月2日 第6回企画会議
- 8月27日 文化庁主催 国民文化祭実行委員会
第2回企画運営委員会
- 10月5日 公式ホームページ開設
- 10月13～14日 大会プレイベント「2年前イベント」（10月21日、27日、11月3日、4日）
- 10月23日 第7回企画会議
- 11月17～18日 大会プレイベント「けんげき25フェス」
- 11月28日～12月2日 大会プレイベント「“こころ”のふれあうフェスタ2018」
- 12月9日 大会プレイベント「牧水が愛したふるさと」
- 12月20日 第8回企画会議
- 12月21日 第3回企画運営委員会
- 1月11～20日 大会プレイベント「榎倉香邨の書-ふるさと展-」
- 3月25日 第9回企画会議

■ 令和元年度

- 4月13日～5月26日 大会プレイベント「藤城清治 愛生きるメルヘン展」
- 4月25日 市町村担当者会議
- 5月18～19日 大会プレイベント「藤城清治 スタンドグラス完成記念関連事業」（5月25～26日）
- 5月20日 第4回企画運営委員会

5月22日	第10回企画会議
6月6日	カウントダウンボード除幕式 宮崎県実行委員会第4回総会
6月15～16日	大会プレイベント「500日前イベント」
8月8日	文化庁主催 国民文化祭実行委員会
8月19日	市町村担当者会議
10月13日	大会プレイベント「一年前イベント・いざや、みやざき宵まつり」
10月14日	大会プレイベント「一年前イベント・“こころ”のふれあうフェスタ2019（ステージイベント）」
10月19日	大会プレイベント「一年前イベント・神話のふるさと講演会」
11月23日	大会プレイベント「まちなか文化堂」（12月14日、21日）
11月27日～12月1日	大会プレイベント「一年前イベント・“こころ”のふれあうフェスタ2019（作品展）」
11月30日	第34回国民文化祭・いがた2019, 第19回全国障害者芸術・文化祭にいがた大会閉会式で国民文化祭大会旗引継式、次年度開催PR
12月18日	第5回企画運営委員会
12月24日	第11回企画会議
1月11日	大会プレイベント「国文学者 中西進氏講演会」
2月13日、20日	市町村担当者会議

令和2年度

4月1日	第35回国民文化祭の宮崎県開催決定 トラベルセンター設置
6月23日	大会の延期発表
6月27日	市町村担当者会議
7月2日	第12回企画会議
7月6日	延期後の会期決定
7月14日	第6回企画運営委員会
8月7日	宮崎県実行委員会第5回総会（書面）
8月24日	文化庁主催 国民文化祭実行委員会（書面）
1月25日	第13回企画会議（書面）
1月29日	第7回企画運営委員会（書面）
2月12日	大会公式ガイドブック発行
3月24日	宮崎県実行委員会第6回総会
7月～3月	さきがけプログラムの実施

令和3年度

4月3～4日	開幕直前イベント（5月8日、6月5日、11日、12日、20日、26日）
5月31日	大会公式ガイドブック（最終版）発行
6月24日	開幕記念イベント
7月3日	第35回国民文化祭・みやざき2020, 第20回全国障害者芸術・文化祭みやざき大会開幕